柳沢秀雄

君

藻いわ 憧憬彩と流れては
あこがれあや なが 万朶一朶の朝霞 の緑春闌けて

若き血潮の踊る時やかのいましましましま 花皆奇しき香ならずや

希望の前途光あり

翼整装る思ありつばさつくろ おもひ

浮華軽佻の

の風あれて

雲より高きアンデスの 天地広しと誰か云ふ 斗を南がの 裾野に友よ羊逐へすその とも ひつじお 翼拡げては

天んに 岸辺の森に斧を振れ 漲るアマゾンの

牛の背に散る蔦紅葉 鐘声止みて今暫ししょうせいやいましば 秋は牧場の夕まぐれ

あき まきば ゆふ 長風夏の雲ゆらぎ 薫る木影に立ちよれば 青葉波よるアカシヤの
あおばなみ

> 自然を己が揺籃 あは れ \_ 美の 国 に 石り 0

巨人の叫び茲にあり 世の濁流を叱咤してょがくりゅうしつた 声すさまじく吹雪く時 八荒裂けて万籟のはっくわうさばんらい 樹林の暗の深き時じゅりん。やみ、ふか、とき 弦月落ちて白楊のげんげつお

おほし立つ可き人皆

あ

意気紅霓に似たるかない。きこうげい

一撃万里す大鵬のまおとり

正気溢るる意気の歌 聞けや人々北州に 世は永久に我世なりょ

北斗の光清ければ 驕奢の波は狂ふとも